

阿部治正の決意

人は誰もひとりでは生きられず、支え合って生きている。しかし、そのきずなが切れかけ、あるいは切れってしまった人々がいる。

きずなから切り離された人々は、不安や孤独に陥り、格差や貧困にもさらされる。孤立や貧困を生じさせず、また生じてしまったそれらを元に戻すことが、政治の役割となる。

人々が孤立し、疎遠になった社会では、それを良いことに、権力を持ちたがり、その権力を個人的な利益のために使う人が出てくる。自分とその取り巻きの小集団の利益を第1におき、社会全体の利益をないがしろにし、異を唱える人を排除し、押さえつけるようになる。そのような社会を元に戻すためには、特権化した集団を批判し、いさめ、退場させることが、政治の役割として重要となる。

私は、そうした政治のために、全力を挙げたい。

市議会になくてもならない人

千葉県議会議員 小宮清子

昨年、市議の職を辞して衆院選に決然と立候補した阿部さん。卓越した行動力と政治への情熱、理路整然と語る力の持ち主。再びその力を市政に活かして下さい。流山市議会になくてもならない阿部さんを、よろしくお願い致します。



阿部治正さんはこんな人

- 1954年 愛媛県今治市に生まれ
- 1975年 働く者の権利と労働条件向上のため労働組合作りに取組む
- 1980年 障がい者の人たちの自立生活運動に参加
- 2011年4月～2013年12月まで、流山市議会議員
- 2014年12月 第47回衆議院議員選挙に立候補
- 「地域福祉を考える会」「九条の会・流山」「戦争をさせない1000人委員会」などで福祉と平和に取り組む

実現しました！

●市の施設の電力料金を大幅削減！

阿部治正は原発事故への責任を取らない東電は市の電力調達に参加する資格無し、よりクリーンで安価な新電力からの調達に切り替えるべきと主張。市は東電ではない新電力から電力を購入することとなり、3年間で約3000万円の経費節約となりました。



●放射能汚染対策を前進させる！

市は当初は自主測定を拒絶、年間20ミリシーベルトというとんでもない線量を擁護した後、「年間1.64ミリ」を唱えた。しかしその非科学性を阿部治正から厳しく批判され、「年間1.23ミリ」を目安にすると主張を転換し、除染の範囲を拡大。健康対策が今後の課題。

●防災士資格取得を市が補助！

防災のカナメのひとつは地域。そこに責任を負い、必要な支援をしっかりと行うのが市の役割。阿部治正は、自治会等に1人の防災士をおくことを目標とし、6万円かかる資格取得費用の一部を助成することを提案。市は補助対象とすると答弁。



●安かろう悪かろう事業委託の改善！

安上がり委託の過剰な追求の結果、クリーンセンターの委託業者がたった5日間で市に巨額の損失を残して撤退。委託職場では低賃金や劣悪な労働条件や雇用不安が蔓延。阿部治正はこれらを改めるため公契約条例の制定を要求。市は要綱で対応することに。



住民第一主義で
議会と市政を変えます

阿部はるま

さんがめざす重点政策

24時間・365日
安心の介護を
保育・医療の支援強め
子育てに希望を

連絡先

〒270-0161 流山市緒ヶ崎 1479-31
FAX 04-7140-7633
HP: www.abeharumasa.jp
Mail: abe@union.email.ne.jp

阿部はるまさ 検索

流山を子育て・福祉・環境の先進都市に 格差を生まないまちづくりと元気な地域経済を

阿部治正
さんのめ
ざす流山

●市民はお客でなく市のオーナー

■「市民はお客」は市民を侮辱する言葉。「市民が主役」の立場で議員も行政もまちづくりを。
■自治会・市民団体との協働は、行政責任の放棄や市民への負担転嫁の手段とせず、市民のイニシアチブが発揮できる仕組みに。
■ごまかしの「地方分権」でなく、権限と財源の移譲による「地域主権」を。



●安心・安全、便利なまちに

■震災と風水害の両方をみすえた万全の災害対策を。江戸川の氾濫や坂川・新明堀・大堀川などの浸水対策を。
■グリーンバスの路線拡充・便数の充実、流鉄の新たな役割づくり、自転車道の整備など、どこに住んでいても不便のない交通ネットワークを。
■犯罪の社会的背景に目を向け、犯罪ゼロのまちを。

●「福祉先進都市・流山」を



■介護保険の財源は、国と企業の社会的役割の強化で解決し、利用者・家族の立場に立った、社会全体で担う介護を。
■誰もが気軽に立ち寄れる福祉相談の場を増やし、

相談の場の十分な人材確保を。

●子どもたちの瞳に輝きを

■小中併設校開校にともなう既存校との教育環境・設備の格差の早急な解消を。
■子どもを災害・犯罪から守るため、老朽化した学校の補修・建て直しを迅速に。
■子育てに格差を生む保育の市場化反対。病児・病後児・障がい児などのニーズに応える体制を。



●みどりあふれる憩いのまちを

■T×沿線開発は、地域全体のバランス、自然・住環境・流山の独自の魅力を活かすことを大切に。
■「市野谷の森」などみどりの保全、「利根運河」「坂川」などの親水公園化をはじめ、歩いて行ける場所に「憩いの場」を。
■大型施設など環境に大きな影響を与える計画は、市民の事前の同意を必要とする規制を。



●いのちとみどりの地域経済を

■地場産業やみどり（農業・環境・再生エネルギー等）といのち（医療・福祉・教育等）の経済、NPOや協同組合などへの支援を強め、経済活力あふれるまちづ

くりを。

■若者・高齢者・障がい者の仕事相談の充実、安定雇用の確保で格差と貧困の拡大に歯止めを。



●行財政改革に市民の目線を

■行政サービス切り捨てのための民間活用、危機感なき漫然とした財政運営をともにいましめ、財政の徹底した透明化を。
■入札は、価格だけでなく、働く人々の労働条件、障がい者への雇用、男女共同参画、自然環境保護への貢献などの評価に基づく「公契約条例」で。

●真剣な放射能汚染対策を

■環境と食品中の放射線量の精密な測定、8000ベクレル/kgを超えた指定廃棄物の徹底した安全管理を。
■放射能被害を隠すための非科学的な安心・安全キャンペーンは直ちに中止を
■真の安全・安心のため、若年者と子どもの健康調査、甲状腺エコー検査の実施を。

●地域から平和の発信を

■「平和都市宣言」にもとづき、戦争に向かう国・地域づくりを許さぬ取り組みを。
■憲法を守り、活かすため、市民・議会・市が共同した活動を。

